

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00106

研究課題名（和文）占領期エゴドキュメントをめぐる思想史文化史的検討と目録化に向けた実証的研究

研究課題名（英文）The research of ideological-historical and cultural-historical study by reading ego-documents are female military service member in the Occupation Era.

研究代表者

長 志珠絵（OSA, Shizue）

神戸大学・国際文化学研究所・教授

研究者番号：30271399

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、女性軍属の手紙や日記を発見、これらをその背後の地域占領の歴史と組み合わせ、テキスト分析することで、占領期をめぐる思想・文化研究としての研究に女性の民主化というテーマを組み込んだ。この結果、これらのテキスト群が性差や階層差、人種論的言説などを含めた異文化接触の産物であると同時に、冷戦が進行するなかでの「民主化」政策の変容に対応した言説であることを明らかにした。加えて写真やポスター、音声インタビューなど従来の公文書枠にとられない多様性を持つ史料群にも着目することで、女性の民主化という主題が置かれた政治力学、地政学的磁場の交差性という論点を抽出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果としては、初年度での学術講演会、学際的な学会での定例会報告、海外提携校と本務校主催による英語での国際シンポジウムでの英語報告等、専門研究者間での口頭報告やそれらを反映した論考、査読論考、共著の分担執筆に加え、次第に規制が緩和されるなか、国内での新たな取り組みとして、他大学研究所等の公開性のあるレクチャー企画や歴史展示、最終年度での海外報告など、社会に開かれた研究成果に加え、コロナ明け早々での対面国際学会・研究会報告等が実現し、今後につながる実績となった。占領期という時代を改めて女性の民主化という観点から文化史思想史的に論じることの社会的意義は高いと考える。

研究成果の概要（英文）：This research incorporated the theme of women's democratization into a study for Occupied Japan as a study of ideas and culture by finding letters and diaries of female servicemen and combining these with the history of occupation in the region behind them for textual analysis. The study revealed that these groups of texts are the product of cross-cultural contact, including gender, class, and racist discourses, as well as discourses that responded to the changing nature of "democratization" policies in the context of the ongoing Cold War.

研究分野：日本文化史

キーワード：占領期 女性の民主化 冷戦

1. 研究開始当初の背景

占領期研究は従来の国家間の関係性としてではなく、地域占領という新たな捉え方、様々な史料群への注目と研究蓄積が重ねられるも、戦後思想史の柱の一つでもある「女性の民主化」という観点をめぐっては深められておらず、地域占領に関わるアクターとしての女性の動きと他方、占領初期の女性政策とを総合的に捉え、明らかにすべく課題を設定した。

2. 研究の目的

本研究は、占領期の重層的な権力の磁場と主体形成との関わりをめぐり研究を土台に、占領期研究のなかの、特に「女性」と民主化をめぐり問題系に焦点をあてることで、占領政策に関わる地域の女性軍属・女性政策に内在する異文化接触と相互交流の動態を見出し、戦後像の再検討に伴う戦後民主主義の問い直しという課題と接続させることを目的とする。

3. 研究の方法

占領軍の軍人・軍属が残した占領期日本をめぐりテキストとして特に、軍属の女性たちの日本占領に関わる手紙や旅行記等をエゴ・ドキュメントとしてとらえる視点に立つ一方、占領初期に展開された女性政策とその記録の存在に着目し、二つの史料群を読み解く。

4. 研究成果

具体的には本研究は、女性軍属の手紙や日記を発見、これらをその背後の地域占領の歴史と組み合わせることで、占領期をめぐり思想・文化研究としての研究に女性の民主化というテーマを組み込んだ。この結果、これらのテキスト群が性差や階層差、人種論的言説などを含めた異文化接触の産物であると同時に、冷戦が進行するなかでの「民主化」政策の変容に対応した言説であることを明らかにした。加えて写真やポスター、音声インタビューなど従来の公文書群にとらわれない多様性を持つ史料群にも着目することで、女性の民主化という主題が置かれた政治力学、地政学的磁場の交差性という論点を抽出した。

このような作業を通じて本研究では、日米という大きな主語間に限定されがちな占領期像をめぐって、これらを地域文化史研究の素材としてそのローカリティをあわせて位置付けることで、大文字の異文化表象分析にとどまらず、ローカリティに関わるアクターとその可能性に注目する必要性を設定した。さらにこうしたこれらの観点から具体的にはエゴドキュメントを思想史研究として読み解く方法論として、地域占領をになった女性軍属という、本国とは異なる自身の特権性に意識的な女性の書き手に焦点をあわせることで、ジェンダー射程に加え、軍隊文化や性

差、階級差、旧植民地出身者などマイノリティの存在に敏感な書き手たちの「視線」のありようを構造として明らかにする一方、参照系として同時代の労働省婦人少年局の、特に地方職員室から発せられる、中央での女性政策の展開およびその思想性などについての言及を重ね、地方職員室の存在や活動を掘り起こすとともに、比較の枠組みの有効性を明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

長志珠絵「占領とジェンダー」『歴史評論』868、2022.5

長志珠絵「労働省婦人少年局と地方職員室・序論」255、2022

〔学会発表〕(計2件)

長志珠絵「エゴドキュメントからみる冷戦下の東アジア」高麗大学校・東アジア共同研究セミナー、2023年 大韓民国・高麗大学校

長志珠絵「「占領期神戸の女性軍属のエゴドキュメントをどう<読む>か」日本思想史学会(年次大会 第三部会)2020年

Shizue, Osa 'Where were Nisei soldiers? - an examination of war memories from a gender perspective' : The 4th HOKU Symposium for Advanced Interdisciplinary Research Collaboration between Kobe University and University of Hawaii ' i

〔図書〕(計2件)

ed Stefan Berger, Nobuya Hashimoto, Borders in east and West: *Transnational and Comparative Perspectives*, Berghahn Books(NEW YORK・OXFORD), 2022

前田勉・苅部直編『日本思想史の現在と未来』ペリかん社、2021

長志珠絵他編『<母>を問うー母の比較文化史』神戸大学出版会、2021

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 長 志珠絵	4. 巻 887
2. 論文標題 「大学における「歴史」教育とジェンダー史実践」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 15,27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 長 志珠絵	4. 巻 60
2. 論文標題 資料紹介「ある家族のアジア太平洋戦争下・京都の日々」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『国際文化学研究』	6. 最初と最後の頁 69,100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24546/0100485330	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 長志珠絵	4. 巻 868
2. 論文標題 占領とジェンダー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『歴史評論』	6. 最初と最後の頁 38,50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Shizue Osa	4. 巻 58
2. 論文標題 Re-thinking of The Memory and Commemoration of War	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『国際文化学研究』	6. 最初と最後の頁 107,118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24546/81013476	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長志珠絵	4. 巻 255
2. 論文標題 労働省婦人少年局と地方職員室・序論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 327,351
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shizue Osa	4. 巻 2021
2. 論文標題 LA QUESTION DES MARIAGES MIXTES DANS LE JAPON MODERN(The Changing Face of Discourses on "Cross-National Marriage")	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Politika (EHESS)	6. 最初と最後の頁 20,45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 長志珠絵	4. 巻 53-6
2. 論文標題 労働省婦人少年局と紙芝居	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 子どもの文化	6. 最初と最後の頁 34,43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shizue Osa	4. 巻 55
2. 論文標題 Where and who have been Nisei soldiers the war memory without gender?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『国際文化学研究』	6. 最初と最後の頁 25,38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81012665	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shizue Osa	4. 巻 53
2. 論文標題 Where was gender roll for Air defense in Japan 1945?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『国際文化学研究』	6. 最初と最後の頁 71,96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81011958	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長志珠絵	4. 巻 114
2. 論文標題 「近代日本の人種・人種化論と「国際結婚」言説の変容」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文学報(京都大学人文科学研究所紀要)	6. 最初と最後の頁 171,186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/252458	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件(うち招待講演 8件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 長志珠絵
2. 発表標題 ジェンダーから私たちに問う一気づきとしての「歴史」の学び
3. 学会等名 日本大学史学会シンポジウム「歴史教育における「私たち」－歴史教育の未来を拓くVIII(招待講演)(招待講演)」
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 長志珠絵
2. 発表標題 戦後日本・地域占領期研究を読み直す－神戸基地・女性軍属のエゴドキュメントから
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所共同研究会「人物でみる第二次世界大戦」例会(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長志珠絵
2. 発表標題 空襲・占領下の日々を綴る
3. 学会等名 国立歴史民俗博物館他主催「近代日本の日記文化と自己表象」研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長志珠絵
2. 発表標題 エゴドキュメントからみる冷戦下の東アジア
3. 学会等名 高麗大学校・東アジア共同研究セミナー（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長志珠絵
2. 発表標題 交差する植民地主義とジェンダー
3. 学会等名 東西大学校日本研究センター日韓共同セミナー（招待講演）（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長志珠絵
2. 発表標題 地方占領期研究と街の記録・カラー写真・岡山
3. 学会等名 岡山大学文明動態学研究所第21回RIDCマンスリー研究セミナー（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長志珠絵
2. 発表標題 「歴史教育シンポジウム「歴史総合」をめぐって(5)」コメント
3. 学会等名 日本学術会議史学委員会・同中高大歴史教育に関する分科会、日本歴史学協会主催（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長志珠絵
2. 発表標題 「空襲を記憶するー戦災資料の可能性」
3. 学会等名 2021年度日本日本平和学会秋季大会「戦争と空爆問題分科会」テーマ;日独における空襲の記録と記憶
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長志珠絵
2. 発表標題 「女性たちの『生』を可視化する ジェンダーからみるイギリス帝国」提題
3. 学会等名 ジェンダー史学会第18回年次大会(2021年)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長志珠絵
2. 発表標題 「占領期神戸の女性軍属のエゴドキュメントをどう<読む>か」
3. 学会等名 日本思想史学会（年次大会 第三部会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長志珠絵
2. 発表標題 「女系・女帝の可能性と<近代>」
3. 学会等名 歴史学研究会(シンポジウム「皇位継承論:女帝・女系の可能性」(招待講演)(招待講演))
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shizue, Osa
2. 発表標題 'Where were Nisei soldiers? - an examination of war memories from a gender perspective'
3. 学会等名 The 4th HOKU Symposium for Advanced Interdisciplinary Research Collaboration between Kobe University and University of Hawai'i (招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計17件

1. 著者名 長志珠絵他編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 226
3. 書名 「世界」をどう問うか?	

1. 著者名 歴史科学協議会編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 273
3. 書名 『深化する歴史学 史資料からよみとく新たな歴史像』	

1. 著者名 ジェンダー事典編集委員会	4. 発行年 2024年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 800
3. 書名 『ジェンダー事典』	

1. 著者名 高木博志編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 688
3. 書名 『近代京都と文化 「伝統」の再構築』	

1. 著者名 成田龍一他編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 927
3. 書名 『世界戦争の惨禍を越えて(アジア人物史第11巻)』	

1. 著者名 長志珠絵他編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 『論点ジェンダー史学』	

1. 著者名 G.Kurt Piehler and Jonathan Grant eds.	4. 発行年 2023年
2. 出版社 OXFORD UNIVERSITY PRESS	5. 総ページ数 720
3. 書名 The Oxford Handbook on World War II	

1. 著者名 植田憲司・衣川太一・佐藤洋一 編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 小さ子社	5. 総ページ数 224
3. 書名 増補新版 戦後京都の「色」はアメリカにあった!	

1. 著者名 竹沢泰子・ジャン・フレデリック・シヨブ編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学出版会	5. 総ページ数 419
3. 書名 人種主義と反人種主義--越境と転換	

1. 著者名 ed Stefan Berger, Nobuya Hashimoto	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Berghahn Books(NEW YORK・OXFORD)	5. 総ページ数 420
3. 書名 Borders in east and West: Transnational and Comparative Perspectives	

1. 著者名 植田憲司, 衣川太一, 佐藤洋一編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都文化博物館	5. 総ページ数 113
3. 書名 『戦後京都の「色」はアメリカにあった!-カラー写真が描く<オキュペイド・ジャパン>とその後>: Occupied Japan Kyoto 1945-52 and Beyond』	

1. 著者名 前田勉・苅部直編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ペリかん社	5. 総ページ数 318
3. 書名 日本思想史の現在と未来	

1. 著者名 歴史民俗博物館編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 集英社インターナショナル	5. 総ページ数 221
3. 書名 新書版『性差(ジェンダー)の日本史』	

1. 著者名 長志珠絵他編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 神戸大学出版会	5. 総ページ数 342
3. 書名 『<母>を問うー母の比較文化史』	

1. 著者名 国立歴史民俗博物館	4. 発行年 2020年
2. 出版社 歴史民俗博物館振興会	5. 総ページ数 320
3. 書名 『性差(ジェンダー)の日本史』	

1. 著者名 日本思想史事典編集委員会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版株式会社	5. 総ページ数 744
3. 書名 『日本思想史事典』	

1. 著者名 桂島宣弘・長志珠絵・金津日出美・沈ヒチャン	4. 発行年 2019年
2. 出版社 文理閣出版	5. 総ページ数 370
3. 書名 東アジア・遭遇する知と日本 トランスナショナルな思想史の試み	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>神戸大学学術成果リポジトリKernel http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/81012665 性差の日本史展 https://www.rekihaku.ac.jp/outline/press/p201006/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------